

ふるさとの開拓者①

「原野を開く」

（中国新聞社編「中国山地・上」より）

暗い開拓地

（庄原市東城町）

本誌の第55号、昨年10月号で、東豊子さんの著作「新しい村」（昭和六二年発行）を紹介した。戦後の日本の食糧事情を改善するために、政府が緊急に「開拓事業」を計画、それに応募した入植者たちの物語だ。

身近な郷里の開拓史なのだが、その事実を知らなかった人も多く、大きな反響が寄せられた。その中に、他の土地での開拓事業についての情報や資料を教えてくださいました。

その内容を抜粋して、何回かに分けて紹介させていたたく。最初に取り上げるのは、中国新聞社が編纂した「中国山地」（上下巻、未来社発行）。

中国新聞朝刊一面に、昭和四一年一月一日から二七五回にわたり連載した記事をまとめたものだ。五人の記者が中国山地の各所に派遣され、取材で歩いた市町村は一一二、集落数で約三百、くわしくインタビューした人たちは千人にのぼったという。

「中国山地」上巻に、「原野を開く」という項目がある。中国地方の開拓事業の経緯を取材した記事である。その中に、東城町（当時は比婆郡）小串開拓地のことが掲載されている。

「この開拓地だけは、二〇年たってもいいことになりませんなあ」という田村久己さんの独白が、その結果を物語っている。

昭和二〇年、田村さんは母親と一緒に岡山笠岡市から東城町に帰って来た。母方の実家の田畑を耕すつもりが、

終戦後に男手がどんどん戦地から復員してくると、居場所をなくして昭和二七年に開拓地に入植する。すでに七世帯が入っていて、出遅れた田村さんには、西北に向いた日あたりの悪い斜面しか残っていません。なかつたという。

国の補助金で、雨ざらしになつて建ちかけの家を安く手に入れ、トタン屋根を葺いた。開墾地の立ち木を伐採してシノを刈って、石ころだらけの土地を掘ってみたが、クワ一丁では一日三メートル

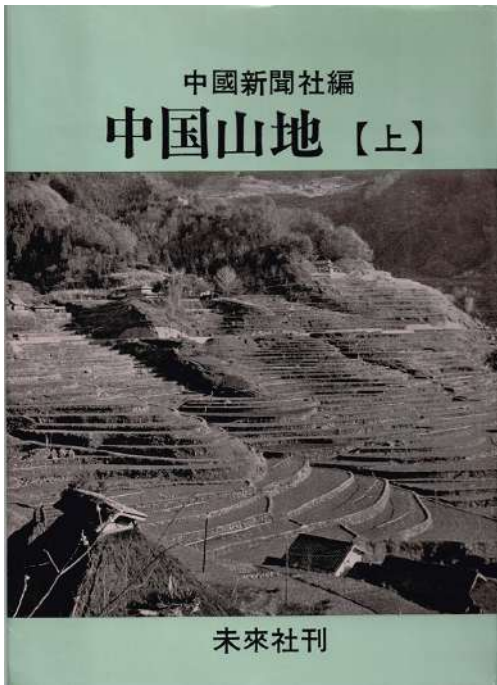
四方の畑をつくるのが関の山。そのうち母親が心臓を悪くして、開拓資金はまたたく間に使い果たした。

「開墾は一文なしのやる仕事じゃあない。食わずにはやれんのだから」と田村さん。その日を生きるために、田植え、稲刈り、山林労働など、日銭になるところへ足を運んだ。開墾のペースはさらに遅れ、目標の半分も開墾できないうちに五年が経ち、開拓不適合者の刻印を押された。

他の七戸の開拓農家も大同小異で、いつの間にか四戸が開拓地から離れた。第二次開拓振興計画の提出を求められたとき、この開拓地からは一軒の提出者もなかった。

「米のめしにミソ汁がいちばん力が出ますなあ」と田村さん。その米のめしが満足に食べられない。食うものさえあれば、落ち着いて開墾できるのだが、田村さんの畑には「食うもの」が作れない。この地方で「クロフク」と呼ぶ酸性土壌のため、限られた野菜類しか作れないのだ。

一度は苦労して田を作ったこともあるのだが、谷川の水の権利がないので水を確保することができずに断念した。この記事が書かれたのは昭和



中国新聞社編
中国山地【上】

未来社刊

和四〇年代初頭、三九九年に東京オリ
ンピックを成功させ、日本は高度経
済成長を邁進している時期だが、田
村さんの入植地の農家はみな、ラン
プ生活を送っている。開拓の光と影、
それだけ原野の開墾は過酷、いや苛
酷だったのだと、あらためて実感し
た。

ひとり残る

(安芸高田市高宮町)

陸士出の戦闘機乗りだった中島重
幸さんは、復員すると開拓に夢を描
いた。故郷である瀬戸内海の倉橋島
にある倉橋町(現在は呉市、当時は
安芸郡)の役場で三〇人の仲間をつ
のり、安芸高田市(当時は高田郡)
高宮町の塔方峰地区に入植した。

軍隊時代、経済書をかたっぱしから
読んでいて、零細農業経営の限界
を確信していた中島さんは、徹底し
た大農式の共同農場の建設を目指し
た。故郷から各自が持って来た農具
もみんなで評価して、出資分を含め
て共同使用、個人名で配布される政
府の開拓補助金や営農資金も「三和
開拓農協」をつくって集中管理した。
しかし、中島さんの理念は充分に
は理解してもらえなかったようで、
入植初年度から不協和音があったと
いう。重ねて、当時は食糧不足。松
しか生えていなかった荒地で、麦を
植えても一〇センチばかり伸びると、
ひよろりと立ち消えた。毎年のよう

に続く干害に「全員栄養失調に悩ま
されましたよ」と中島さん。

入植翌年から、逃げ出す人が相次
いだ。途中から入った人もあったが、
長続きしない。三三年、ついにひと
りになった。一〇年の苦闘で五百万
円を越える借金、利子もつもって元
利合計の一〇〇万円(当時)が全部、
中島さんの肩にのしかかった。

皮肉なことに、ひとりになってか
ら急に作物の出来が良くなった。近
所の既成農家をたくさん雇って、サ
トイモやスイカで利益を上げた。養
豚業にも進出して、順調に売上を伸
ばした。

ところが、地元の農協を通さずに
作物を出荷するなどの独自路線が軋
轢を生んで、地元民から突き上げら
れて県が動いた。当時の農地法だと、
個人では三ヘクタール以上の農地は
耕作できないことになっていた。大
農経営を主張して抵抗したが、三八
年、十四ヘクタールの農地は分割さ
れて、中島さんの農地は七・一ヘク
タールになった。

「トラクターを入れるにしても一〇ヘ
クタール以上でない」と採算は合わな
い」と中島さん。目下スト決行中で、
豚に食べさせるクローバーしか作っ
ていないという。

◆ ◆

中国新聞に記事が掲載されてから、
半世紀以上の歳月が流れている。可
能であれば、現状がどうなっている
のかレポートしてみたいと思った。

ふるさと掌編昔話①

「切りたくもなし」

むかし。

和尚と小僧があった。その和尚が
なあ、小僧たちに、

「これ、ここに梨が一つ、大きなんが
あるんじゃが。切りたくもあり、切
りたくもなし、いう末の句うみん
なに出すから、上の句う上手に作っ
た者(もん)に、この梨うやるけえ、
みんな和歌を作ってみいな」

言うたら、一番弟子の小僧が、
「筆筒に少し余れる筆の軸、切り
たくもあり切りたくもなし」いう
て、詠んだん。

「うまいぞ。これが梨う取るかもし
れん。他に良(え)え考えが出んか」
言うたら、その次の小僧が、
「待ち出でし月のかけする庭の松
切りたくもあり切りたくもなし」

「こりやあ、今の筆の筒のぶんたあ
もつと良(え)えぞう。もう無か
ろうなあ」

言うたら、三番目の小僧が、

「梨一つ惜しむ坊主の細っ首、切
りたくもあり切りたくもなし」

言うたら、和尚が腹あ立って、
「こりやあッ。何うぬかすんなら、
不届き者がッ！」

梨うプラアンとぶつつけたら、
小僧は、

「有り難くちようだいいたします」
言うて、受け取ったいう。

(神石郡豊松村で採録)

「採訪記録ひろしまの民話第二集」
(中国放送編集)より転載。



山口瞳 『江分利満氏の優雅な生活』

——ニューファミリーの成熟

えっ、これが小説？ 直木賞？

といぶかるような作品と言えば失礼だろうか。こちらの頭がいかにも硬いかということなのです。時代は一気に進んだのです。

山口瞳『江分利満氏の優雅な生活』（文藝春秋新社、63年刊）は、作者山口瞳を投影したような「江分利満氏」による生活と意見です。江分利氏は、大正末年に生まれ、「昭和」と歩みを共にしているのが特徴です。波乱の青少年、新入社員期を経て今は、モダンなテラスハウスの社宅に住んでいます。そこでのちよつと“優雅な”生活を披露して見せません。

この「読んでみたい本」の欄では、60年代を戦後の転換期とみて、小説の広がり眺めています。『江分利満氏の——』は、小説なのか、エッセイ集なのか分別がつきません。典型的な都市サラリーマンである江分利氏の生活には、日本の経済発展でめまぐるしく変化する近代化への反発と自嘲が読みとれます。

江分利氏は、35歳で妻と息子の3

人暮し。東京・山手線沿線の団地に住み、都心に通勤します。「しづい結婚」の項から始まります。

うよ』という条をくりかえし歌った」というのです。

昭和37（1962）年現在、「本給3万6千円、諸手当をナンダカンダ加えて、税金やら失業保険やらナンダカンダ引かれて、手取りは4万円である。そこへもってきて入院中の

また読んでみたい本⁵⁶ 青年たちに 音谷 健郎



【文藝春秋新社版の表紙】

古今東西の文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の青年たちにも読んでもらいたいと思い、毎月1冊ずつ紹介しています。

第56回は、山口瞳の『江分利満氏の優雅な生活』です。もし興味を持ったらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を経て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

「菓子屋の2階、北側の4畳半1間が江分利の新居である」「新婚6ヶ月で江分利は、どうやってこの女と別れようか、と真剣になって考えた。しかし、次の日には、その頃はやった『東京の屋根の下』を2人で歌った。『なんにもなくてもよい口笛吹いていこ

父に平均1万円はかかる。庄助（息子）の稽古と家庭教師で6千円。夏子（妻）の長唄で2千円。これを贅沢だといふのか！」「江分利家は2万円で暮らさなければならぬ。これがホワイト・カラーの実態なのだ」と報告します。「江分利には不思議なのだ、みんな

が、いったい、どうやって暮らしているのか、ほんとに自分たちだけでやっていけるのか」。江分利には、息子や妻の習い事の出費を、苦しいなか当然として生活に組み込む矜持があります。前の時代とは違うのです。

昭和の半ばで、すでに昭和を引き受けたような気概を見せます。戦時下の青春が、学徒動員で死と隣り合わせだったからです。「白髪の老人は許さんぞ。美しい言葉で、若者たちを誘惑した彼奴はゆるさないぞ」と、なるのです。

世代間のギャップも経済発展と歩調を合わせているのを見逃しません。「30歳の連中と25歳までの新人たちにも気質的に断層がある。若い人たちは、よくもわるくも自己中心である」と。

近代化には、危惧を持っているのです。「アメリカ式の社員教育や講習会がひんぱんに行なわれて、朝顔をあわせてみんな同じ挨拶をするようになるのではないかと」。

軽妙、洒落な文章で読ませますが、経済の高度成長で、生活文化がいかに変容したかを見せつけます。次回は、大城立裕『カクテル・パーティー』を取り上げます。

比婆山連峰の自然(1)

著者紹介…一九三一年、比婆郡(現・庄原市)比和町に生まれる。農学博士(九州大学)。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びとと」(シンセイアート出版)から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

1. はじめに

比婆山連峰とは、東から竜王山、立烏帽子山、池の段、比婆山(御陵は標高1264メートル)の地点に

ある)、烏帽子山と続き、烏帽子山から西へ大膳原(烏帽子山と吾妻山間の平坦面)を通って吾妻山と続く一帯を指す。この一帯は広島県の地形地域区分上、比婆山山塊に属し、立烏帽子山を主峰とする比婆山山塊は備北山地(中央中国山地)の中で最も高い山地で、立烏帽子山・竜王山・比婆山・烏帽子山・吾妻山の5峰を一般に比婆山連峰と呼んでいる。

比婆山連峰は明治百年を記念して造成された「広島県民の森」の範囲であり、比婆山連峰を中心に、比婆山連峰の東にある道後山(標高1265m)と南にある帝釈峽をふくめ、「比婆道後帝釈狭国定公園」に指定されている(1963年指定)。

比婆山連峰は、古くから「たたら製鉄」が盛んで、吾妻山の西斜面や比婆山の東斜面(六ノ原)では「鉄穴(かな)流し」(砂鉄の採掘)が行われ、砂鉄の精錬に必要な木炭(大

炭)の生産のために、現在、「比婆山のブナ純林」として国の天然記念物に指定されている地域を除いて、ほとんどのブナ林が伐採され、その跡地は放牧地として利用され、放牧地としなかったところはミズナラなどの二次林、そして、スギ・ヒノキの植林地となっている。ここでは生物多様性の立場から、現在の比婆山連峰の自然を概観したい。

2. 比婆山のブナ純林

御陵は、古事記にいう「故(われ)、其の、神避(かむさ)れる伊耶那美神(いさなみのかみ)は、出雲国と伯伎国(ははぎのくに)との堺の比婆之山に葬(はぶ)りき」(そして、その神避った伊耶那美神は、出雲国と伯耆国(ほうきのくに)との堺にある比婆之山に葬った)(小学館版「古事記」43ページによる)とある神聖

な地域である。御陵は古くから信仰の対象とされていたから、ブナ林は伐採されることなく保護されていた。これは、御陵の東側の登山道を挟んで、東斜面の西城町油木(六ノ原)と西斜面の比和町三河内(みつがいち)字越原(おっぱら)の35haの範囲で、そこは標高約950mの地域で、この範囲のブナ林が「比婆山のブナ純林」として国の天然記念物に1960年9月、指定され保護されている。

ブナ純林という呼び方は、植物学上の用語ではない。植物学的にはブナ林は「令温帯(年平均気温摂氏6度〜12度、暖かさの指数は45〜55)という気候帯に成立した極相林」と定義されている。

ブナ *Fagus crenata* Blume は、北海道(渡島半島の黒松内町以南)から本州、四国、九州の山地に分布し、南限は鹿児島県高隈山である。広島



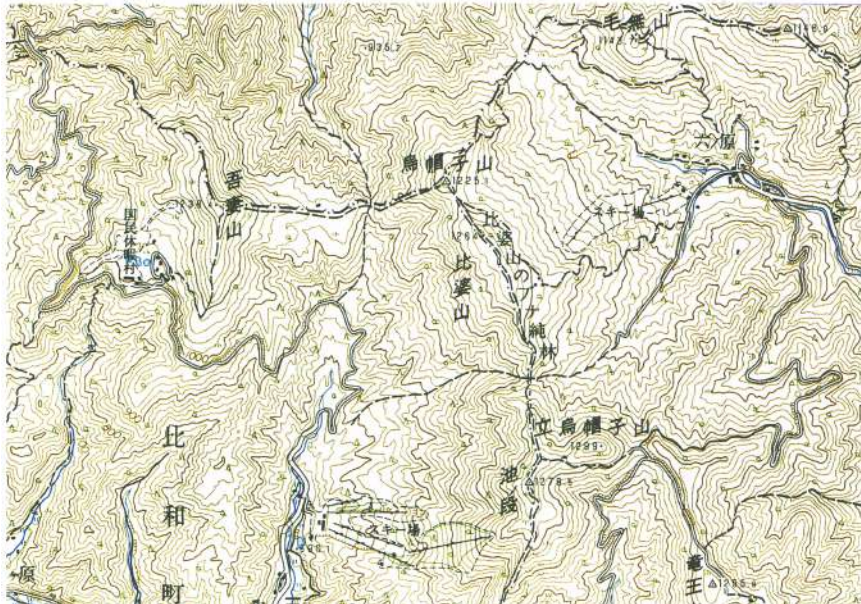
小川光昭氏撮影

県内では備北山地（中央中国山地）、西中国山地の標高800〜900m以上の山頂域に分布し、最も南にあるブナ林は廿日市市の大峯山で、標高1000m付近に見られる。

日本のブナ林は、日本海型気候の影響下で発達するチシマザサ・ブナ林（ブナ・チシマザサ群団）と、太平洋型気候の影響下で発達するスズタケ・ブナ林（ブナ・スズタケ群団）と、大きくふたつのタイプに分けられている。そして、ブナ・チシマザサ群団は、北海道渡島半島のブナ・アオトドマツ群集、東北地方から北陸地方のブナ・オオバクロモジ群集、中国地方のブナ・クロモジ群集の三つのタイプに分けられている。

従って、比婆山のブナ林は、ブナ・チシマザサ群団のブナ・クロモジ群集となる。比婆山のブナ・クロモジ群集は、第1層（高木層）をブナが占め、第2層（亜高木層）はブナ（幼木）・イタヤカエデ・ミズナラ・コハウチワカエデ（ハウチワカエデも混じる）・トチ

ノキ・リヨウブ、第3層（低木層）はクロモジ・タンナサワフタギ・オオカメノキ・エゾユズリハ・ハイイヌガヤ・チマキザサ、第4層（草本層）はオオカニコオモリ・ミヤマカタバミ・マルバフユイチゴが優占し、みごとな階層構造を呈している。



比婆山連峰の位置
（国土地理院5万分の1地形図「多里」より転載）

「つれづれ歌談」⑦

松岡初枝

一月といえは歌会始。歌御会始（うたごかいはじめ）と言ひ、宮中での新年最初の歌会で、明治五年より国民一般からの詠進歌も加わるようになり、今に至っていません。天皇家は歌と深い歴史的なつながりがあります。

・秋の田のかりほの庵の苫（とま）をあらみわが衣手は露にぬれつつ（天智天皇）
百人一首一番初めの歌としてよく知られた歌で、天皇も稲刈りをしたのでしょうか。

・よき人のよしとよく見てよしと言ひし吉野よく見よよき人よく見（天武天皇）

天武にとって吉野は壬申の乱の挙兵の地。特別な場所です。よし「が



八回も出て来るので、よほどお気に入りなのですね。二人の兄弟帝は万葉の時代を飾る代表的な天皇です。

・かくのごとく荒野が原に鋤をとる引揚人をわれは忘れじ（昭和二十五年、昭和天皇）

敗戦後の大変な時代に、昭和天皇は地方巡幸を始めます。右の歌は、引揚者達が入植した場を訪れた時に詠まれた歌ですが、国民と共に祖国の復興を願う天皇の心情が伝わり、胸に迫るものがあります。

・贈られしひまはりの種は生え揃ひ葉を広げゆく初夏の光に（平成三十年、上皇陛下）

阪神・淡路大震災で犠牲になった少女の自宅跡に咲いたひまわりの花の種が、平成十七年の追悼式典の時に、当時の天皇、皇后に贈られました。毎年御所の庭で花を咲かせては種を取り続けた両陛下。右の歌は平成最後の三十一年の歌会始の陛下の御製です。

各御代の天皇は、国民と共に長い歴史を歩み続けて来られたのです。

(孫の健人が逞しく生きてゆけますように、元気を、そして学校に通う勇気を与えてください)

拜殿を前にして、一心に祈る心の声が聞こえてくる。枯れ木のように細い身体の内面で、蠟燭の炎が透けて見える。あれではもう、三か月ももたないだろう。蠟はほとんど溶けていて、今にも消え入りそうに弱々しく揺れている。

老婦人が石段を下りて行ったあとで、石像の一体から、影のようなものが抜け出した。口を閉ざした吽形(うんぎょう)の狛犬の像である。台座から地面に跳び降りて、全身で大きく伸びをすると、ブルブルッと頭を振った。金色の鬘(たてがみ)が、満月の光を浴びて輝いた。

(何をやるつもりだ？ あの婆さんは、御託宣に選ばれた人間じゃないんだぞ)

阿行の狛犬が声を荒げた。

(でも、賽銭に五百円も入れてくれたんだぞ)

(ふざけるな！ 神義に背くと、罰を被るぞ)

豪快な哄笑が境内に響いた。吽形の狛犬は、前足をたたんで前傾すると、満天の星空に向かって跳躍した。

「おかあさん……」

声をかけると、椅子に腰かけていた母親が、枕元に顔を寄せて微笑んだ。

「どうしたの？」

疲れた顔をしている。

「喉がかわいちゃって」

本当のことが言えなかった。

「ジュースでも買ってこようか？」

「お茶でいいよ」

あうん3

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子 ⑤2

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

電動でベッドの上半身を起こして

もらって、マグカップに入っている

冷めたほうじ茶を飲んだ。本当は右

足のすねを搔いてもらいたかった。

猛烈に痒いのだ。しかし、それを言っ

たときの母親の困惑した、悲しそうな顔を思い出した。

ありえないのだ。交通事故で、右

足の膝から下を失った。自分でも

……、今でも信じられない。目が醒

める度に、あれは夢だったのだと、

右足を動かして確認してしまう。

「おばあちゃん……」

祖母が姿を現した。

「お義母さん、どうしたんですか、こんなに夜遅くに」

「健人の顔を見たくなってね」

そう答えた祖母の背後を見て仰天

した。大きな動物が後に付いて来る。

ライオンだろうか？ いや、顔が違

くる度に、あれは夢だったのだと、

右足を動かして確認してしまう。

「おばあちゃん……」

祖母が姿を現した。

「お義母さん、どうしたんですか、こんなに夜遅くに」

「健人の顔を見たくなってね」

そう答えた祖母の背後を見て仰天

した。大きな動物が後に付いて来る。

ライオンだろうか？ いや、顔が違

くる度に、あれは夢だったのだと、

右足を動かして確認してしまう。

「おばあちゃん……」

祖母が姿を現した。

「お義母さん、どうしたんですか、こんなに夜遅くに」

「健人の顔を見たくなってね」

そう答えた祖母の背後を見て仰天

した。大きな動物が後に付いて来る。

ライオンだろうか？ いや、顔が違

くる度に、あれは夢だったのだと、

右足を動かして確認してしまう。

「おばあちゃん……」

祖母が姿を現した。

「お義母さん、どうしたんですか、こんなに夜遅くに」

「健人の顔を見たくなってね」

(ベッドから出て来い！)

(無理だよ。片足じゃ歩けない……)

(弱虫だな。リハビリもさぼっているぞうだな)

(必要ないよ。こうして寝てれば楽

ちんだもの)

(豚になるぞ！)

両手に違和感を覚えた。見ると指

が消えて、二股に分かれた豚のヒズ

メになっている。

(早く来るんだ！)

反射的にベッドから跳び下りた。

怖々と両手を見ると、指が戻ってい

る。

(うん？)

裸足の両足を見た。右足がある！

母親はベッドの方を見たまままだ。

ベッドで寝ている自分の姿が見え

た。祖母の顔を見ると、励ますよう

に頷いた。

怪物の声に従って、よじのぼるよ

うにして背中にもたがった。出口に

向かって歩きます。振り落とされな

いように、長い鬘をしっかりとつか

んだ。濃厚な獣臭が鼻腔を満たした。

廊下の途中で、宿直の看護師に出

会った。がみがみと小うるさいおば

さんだ。すれ違う時に、肥満したお

尻をパチンと叩いた。悲鳴を上げて



辺りを見渡す。哄笑が耳の中で爆発した。

階段を駆け上がった、病院の屋上に出た。木枯しに身震いする。パジャマを着ているだけなのだ。

(暖かい場所に連れて行ってやるかな)

手が届きそうなほどの星空だ。一気に跳躍した。夜空を四肢で蹴って飛翔する。どんどん加速しているはずなのに、星が前方に流れて行く。それが光の渦の漏斗になって、健人は時間の感覚を失った――。

「セングリニア！」

キツネに似た動物を見て、思わず歓声を上げた。でかい！ 動物園で見た虎ぐらいいはあるだろうか。比和

自然科学博物館のパネルでその姿を見た。約四千万年前に現れた、最初の犬型生物だと言われている。

セングリニアの化石は、フランス、スペイン、そしてアメリカのワイオミングとネブラスカで発見された。庄原市の宮内町で見つかったセングリアの歯が世界で五例目。この犬の祖先が、ユーラシア大陸にもいたということが実証された。日本は大陸の一部だったのだ。

セングリニアが突進して来る。その迫力に、顔を伏せて目を閉じた。

(飛ぶぞー！)

蠶にしがみついた。すぐに海上に出た。中国山地は、かつては海だったのだ。回遊してきた四種のクジラの化石が発見されている。ヤマオカクジラ、ヒロセヒバクジラ……、発見者の名前を冠して、化石が展示されている。

いつかは自分の名前がつくような凄い化石を見つけるんだ！ 将来は考古学者になって、ゴジラのようなでかい恐竜を発掘してやる！ 化石少年の夢だった。

群青の海原に大きな水柱が上がっ

た。その直後に、小山のような巨大な塊が海中から出現した。尾びれで海面を打って、巨体が宙に舞った。海ケトテリウム科のヒゲクジラだ。海中に飛び込むときの盛大な水しぶきが、滝のように降りかかる。

「しよっぺえー！」

哄笑が耳の中で炸裂した。

(どうしたんだろうな)

石像の眉間の亀裂を優しく撫でた。

(でも、悪くないよ)

威厳が増したようにも見える。

「これを見せに来たんだ」

健人が右足のズボンの裾をまくった。金属製の義足が現れた。

「カッコイイだろ！ 超合金なんだぞ」

胸を張った。返事はなかった。

(ありがとう)

少年が石像の首に手を回して、しばらく抱擁していた。

石段を下りる足取りはまだぎこちない。途中で振り向いた。蝉しぐれの中に、あの笑い声が聞こえたような気がした。

※画像は庄原市比和自然科学博物館のフェイスブックからの転載です。

まつの古本屋さん どろ書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・ 無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
- ・ 地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。

※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日 (2月は店内整理で全休)
- TEL: 090(9913)3052
- 営業時間 9:30 ~ 18:30

※広島銀行庄原支店の手前 (三次側から) ※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

< 広告料 1/4 ページ 1回 2,000円 半年間 9,000円 1年間 15,000円 >



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「少年と老人の冒険」

ジュディス・シルバーソーン 著 エンデバース

小学5年生のダニエルは、地元で採取した古代の藻類の化石から、この農場の下には白亜紀の恐竜の化石が眠っていると確信していた。しかし、凶作続きで実家の資金繰りが悪化、家族は石油会社に土地を売却するしかないという窮地に追い込まれる。

そこで登場するのがピーダーソンという偏屈な老人。奥さんを殺して埋めたと噂されている老人とダニエルの出会いが奇跡を起こすことになる。前半部分は借金返済のために農場を手放そうとする父親と、恐竜の化石発見を夢見るダニエルとの確執が延々と描かれて食傷するのだが、笑顔の大団円が待っている。最後まで読んで良かった！



「囚人狂時代」

見沢知廉 著 ザ・マサダ

右翼団体の幹部で、「スパイ粛清事件」等の実行犯として逮捕された著者は、殺人罪で懲役12年の判決を受け、千葉刑務所に収監される。囚人の8割が殺人罪だという凶悪犯の巣窟。金属バット事件の一柳展也や新宿西口バス放火犯の丸山博文、黒い霧事件の吹原弘宣、冤罪だと言われる狭山事件の石川一雄氏等々、“有名人”が実名で続々と登場。



個々のエピソードは微笑ましいぐらいに人間味に溢れている。刑務所という過酷な状況下でも、いや、だからこそ、濃密な人間関係から逃れることはできないのだ。囚人と共に、犯罪の内容が簡潔に紹介されていて、戦後の事件史としても興味深い。

「短歌という爆弾」

穂村弘 著 小学館

「今すぐ歌人になりたいあなたのために」との副題。深夜ラジオで名前と作品を知った。短歌界のニューウェーブと呼ばれる新感覚派の歌人の旗頭。「終バスにふたりは眠る紫のく降りますランプ」に取り囲まれて」「サバンナの象のうんこよ聞いてくれだるいせつないこわいさみしい」、首を傾げながらも、どこか共鳴している自分がある。



前衛のトンデモ短歌論かと思いきや、石川啄木や若山牧水、寺山修司や塚本邦雄等々の歌を引用してなかなかの正統派なのだ。短歌で必要なのは共感と驚異、そう断言されて納得。それにしても、牧水や塚本邦雄の短歌は良いなとしみじみ思ってしまった。

どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣（店内専用通貨）であれば半額、現金であれば3割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

どらくる俳壇&歌壇

人間の寝床で猫の寝正月

身についた主夫のメモ書き歳の市

餅を食う傍ら犬の座りをり

稲の花雲の流れの静かにて

粕汁や裏山の笹風の音

本堂の階段借りて日向ぼこ

過疎の町床の底から冬来る

月のようなる白粉を塗る娘らも

おけら参りか除夜は更けゆく

近藤 昌平

富久光

片岡 正人

西谷 白及

隆愚

大槇 三代子

赤川 冬人

松岡 初枝

※参加を歓迎します。

「メリー・クリスマス」

赤川仁洋

「うん？」

夜中に目が醒めた。まさかこの感触は……。恐々と股間の方に手を伸ばすと、じっとり濡れている。指先を嗅ぐと醜えたような臭い。やりやがったな、と布団をはねのけると、布団の中で一緒に寝ていたはずのドラマが、枕元で申し訳なさそうに”正座”している。

猫を飼ったことのある人は誰でも経験することだが、グルーミングで体内に溜まった毛玉を排出するため嘔吐する。カリカリの猫餌で、毛玉対策（糞と一緒に排出）用のものを与えているのだが、それでも月一回は吐いてしまう。

見ていると、人間が飲み過ぎたときに似ている。えずいて苦しうに顎を前に突き出して、全身を痙攣するように嘔吐する。内容物がなくなっても、何度もえずいて胃液を絞り出す様まで、酔っ払いにそっくりだ。

この猫の嘔吐は突発的で、わたしの膝の上で始まったり、夏の寝苦しい夜に、枕元で吐かれたこともある。

おなかが空っぽになったので、餌を催促するようにドラマが「ニャア」と甘啼きした。

「今夜は特別だぞ」

大好物の煮干しを少々。ドラマとの四回目のメリー・クリスマス、コロナ禍で大変だった年もあと数日で終了する。しかし、店内に掲げている旧暦カレンダーでは、今日はまだ十一月十日、元旦は来年の二月十二日になる。

年明けがまだまだ先だと考えると、年末のせわしない気分が緩和される。うちの古本屋では、年末年始も関係なく定休日以外は開店予定。正月に古本屋に来るようなものはほとんどいないだろうが、静かな一日もまた楽しいのです。

投稿&寄稿

候のことば

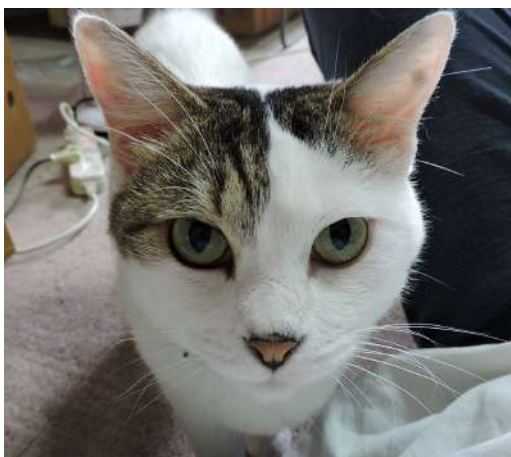
「小正月」

隆愚

一月一日を大正月、十五日を小正月といい、旧暦ではちょうど満月を迎えます。新年最初の満月の日に、正月を祝っていたのです。なので本来はこの日までが松の内。

小正月には小豆粥（あずきがゆ）

を食べるならわしがありますが、小豆粥はお米と小豆を炊き込んだ、晴れの日の食べ物。平安時代の宮中では、小正月に米、小豆、粟（あわ）、ごま、黍（きび）、稗（ひえ）、ムツオレグサの七種粥を食べたそう。正月中も忙しく働いた女性たちがやっとなしようにがつ）ともよばれます。



どらくろあ 掲示板

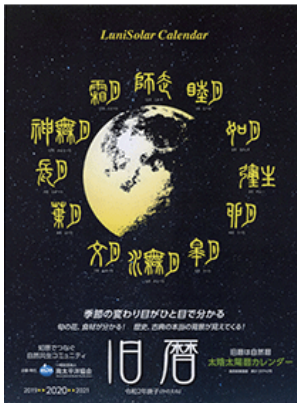
地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>



「旧暦カレンダー」(販売価格:1,650円)

- ・日本の自然に根差した暦(こよみ)です。
- ・太陽暦でも太陰暦でもない、「太陰太陽暦」です。
- ・新暦(太陽暦)も併記しているので便利です。
- ・季節の行事や呼び名の意味が、より深く理解できます。
- ・自然災害の予測ができます。

どら書房にて令和3年度版 好評販売中!
残り僅かです。

「九日市からののお知らせ」

12月8日夕方、「庄原市に新型コロナウイルスの感染者1名、濃厚接触者の自宅待機」の情報を入手した為、急遽、12月9日の「九日市」を中止する処置を取らせていただきました。毎月お出でいただく皆様には、ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

1月9日の「九日市」につきましても、12月21日の九日市運営会議におきまして、中止の決定をいたしました。

理由は、会議の時点で、まだ未発表でしたが、庄原市内で1名の感染者が出たという情報を入手したからです。

感染拡大予防のための仕方がない中止ですが、皆様にご迷惑をおかけしますことを深くお詫び申し上げます。

現在のコロナ禍が緩和して安全になりましたら「九日市」の再開をいたしますので、よろしくお願ひ申し上げます。

出店申込みは、

【毎月20日締切】

コンパネ1枚スペース1,000円～九日市愛好会事務局

〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 楽笑座内 TEL/FAX 0824-72-8285



発行：どら書房

〒727-0012

庄原市中本町2-1-10

☎090(9913)3052(赤川)

e-mail: touzin@nifty.com

年間購読料:2,000円(郵送費込)

誌面デザイン:ROUTE183

協賛:九日市愛好会

編集後記

◇新年、明けましておめでとうございます。本誌がスタートして五回目の新年、今年のも三月号で丸五年になります。

◇今月から紙面が一枚(2ページ)少なくなります。内容によっては、元のページ数に戻すこともありまますので、よろしくお願ひします。

◇どら書房は毎年二月、店内整理で休業します。

◇一月の九日市は土曜日ということもあって、去年開催して好評だった福引をやる予定だったのですが、残念です。

◇毎日のコロナ禍のニュースを見ると不安になります、個人としては、やるべきことをきちんと守るしかありません。日本の和の力を再び!